

三力書

第一章 ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの代にモレシテ人ミカに臨めるエホバの言はすなはちサマリヤとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なりニ萬民よ聽け地とその中の者よ耳を傾けよ主エホバ汝らに對ひて證を立たまはん即ち主その聖殿より之を立たまふべし三視よエホバその處より出てくだり地の高處を踏たまはん四山は彼の下に融け谷は裂けたり火の前なる蟻のごとく坡に流るる水の如し五是みなヤコブの咎の故イスラエルの家の罪のゆゑなりヤコブの愆とは何かサマリヤにあらずやユダの祭司とは何かエルサレムにあらずや六是故に我サマリヤを野の石堆となし葡萄を植る處と爲し又その石を谷に投おとしその基を露さん七その石像はみな碎かれその獲たる價金はみな火にて焚れん我その偶像をことごとく毀たん彼妓女の價金よりこれを積たれば是はまた歸りて妓女の價金となるべし八我これがために哭き咩ばん衣を脱ぎ裸體にて歩らん山木のごとくに哭き駝鳥のごとくに啼ん九サマリヤの傷は醫すべからざる者にてすでにユダに至り我民の門エルサレムにまでおよべり一〇ガテに傳ふるなかれ泣きけぶ勿かれベテレアフラにて我塵の中に輾びたり一サピルに住る者よ汝ら裸になり辱を蒙りて進みゆけザアナンに住る者は敢て出ずベテエゼルのの哀哭によりて汝らは立處を得ずニマロテに住る者は

己の幸福につきて思ひなやむ其は災禍エホバより出てエルサレムの門に臨めばなりニラキシに住る者よ馬に車をつなげラキシはシオン女の罪の根本なりイスラエルの愆は汝の中に見ゆ二四この故に汝モレセテガテに離別の饋物を與へよアクジブの家々はイスラエルの王等におけること人を欺く溪川のごとくなるべし五マレシヤにすめる者よ我また汝の地を獲べき者を汝に携へ往べしイスラエルの榮光アドラムに往ん六汝その悦ぶところの子等の故によりて汝の髪を剃おろせ汝の首の剃し處を大きくして驚のごとくにせよ其は彼等擄へられて汝を離るればなり

第二章 その牀にありて不義を圖り惡事を工夫る者等には禍あるべし彼らはその手に力あるが故に天亮におよべばこれを行ふニ彼らは田圃を貧りてこれを奪ひ家を貧りて是を取りまた人を虐げてその家を掠め人を虐げてその産業をかすむ三是故にエホバかく言たまふ視よ我此族にむかひて災禍を降さんと謀る汝らはその頸を是より脱すること能はじまた首をあげて歩くこと能はざるべし其時は災禍の時なればなり四その日には人汝らにつきて詩を作り悲哀の歌をもて悲哀を言ふ事既にいたり我等は悉く滅ざる彼わが民の産業を人に與ふ如何なれば我よりこれを離すや我儕の田圃を違逆者に分ち與ふ五然ば汝らエホバの會衆の中には籤によりて繩をつつ者一人も有じ六預言する勿れ彼らは預言す彼らは是等の者等にむかひて預言せじ

恥辱彼らを離れざるべし七 汝ヤコブの家と稱へらるる者よエ
ホバの氣短からんやエホバの行爲是のごとくならんや 我言
は品行正直者の益とならざらんや八 然るに我民は近頃起りて敵
となれり 汝らは夫の戦争を避て心配なく過るところの者等に
就てその衣服の外衣を奪ひ九 我民の婦女をその悦ぶところの家
より逐いだしその子等より我の妝飾を永く奪ふ一〇 起て去れ是
は汝らの安息の地にあらず 是は已に汚れたれば必ず汝らを滅
さん 其滅亡は劇かるべし二一人もし風に歩み 謊言を宣へ 我葡萄
酒と濃酒の事につきて汝に預言せんと言ことあらばその人はこ
の民の預言者とならんニヤコブよ我かならず汝をことごとく
集へ 必ずイスラエルの遺餘者を聚めん 而して我之を同一に置
てボツラの羊のごとく成しめん 彼らは人數衆きによりて牧場
の中なる群のごとくにその聲をたてん三 打破者かれらに先だ
ちて登彼ら遂に門を打破り之を通りて出ゆかん 彼らの王その
前にたちて進みエホバその首に立たまふべし

第三章 我言ふヤコブの首領よイスラエルの家の侯伯よ 汝ら
聽け公義は汝らの知べきことに非ずや二 汝らは善を惡み惡を好
み民の身より皮を剥ぎ骨より肉を剔り三 我民の肉を食ひその皮
を剥ぎその骨を碎きこれを切ぎさみて鍋に入る物のごとくし鼎
の中にいるる肉のごとくす 四 然ば彼時に彼らエホバに呼はると
もエホバかれらに應へたまはじ 却てその時には面を彼らに隠
したまはん 彼らの行 惡ければなり五 我民を惑す預言者は齒に

て嚙べき物を受る時は平安あらんと呼はれども何をもその口に
與へざる者にむかひては戰鬥の準備をなすエホバ彼らにつぎ
て斯いひたまふ六 然ば汝らは夜に遭べし 復異象を得じ 黑暗に
遭べし 復ト兆を得じ 日はその預言者の上をはなれて没りその
上は晝も暗かるべし七 見ずは愧を抱きト者は面を報らめ 皆共に
その唇を掩はん 神の垂應あらざればなり八 然れども我はエホバ
の御靈によりて能力身に満ち公義および勇氣衷に滿ればヤコブ
にその愆を示しイスラエルにその罪を示すことを得九 ヤコブの
家の首領等およびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の
正直事を曲る者よ 汝ら之を聽け一〇 彼らは血をもてシオンを建
て不義をもてエルサレムを建つ二 其首領等は賄賂をとりて
審判をなしその祭司等は値錢を取て教晦をなす 又その預言者
等は銀子を取て占トを爲しエホバに倚頼みて云ふエホバわれら
と偕に在すにあらずや 然ば災禍われらに降らじと 是により
てシオンは汝のゆ糸に田圃となりて耕へされエルサレムは石堆
となり宮の山は樹の生しげる高處となりん

第四章 末の日にいたりてエホバの家の山 諸の山の巔に立ち
諸の嶺にこえて高く聳へ 萬民河のごとくに流れ 歸せん二 即ち
衆多の民來りて言ん 去來我儕エホバの山に登ヤコブの神の家
にゆかんエホバその道を我らに教へて我らにその路を歩まし
めたまはん 律法はシオンより出でエホバの言はエルサレムよ
り出べければなり三 彼衆多の民の間を鞫き強き國を規戒め遠き

處にまでも然したまふべし彼らはその劍を鋤に打かへその鎗を鎌に打かへん國と國とは劍を擧て相攻めずまた重て戰爭を習はじ四皆その葡萄の樹の下に坐しその無花果樹の下に居ん之を懼れしむる者なかるべし萬軍のエホバの口之を言ふ五一切の民はみな各々その神の名によりて歩む然れども我らはわれらの神エホバの名によりて永遠に歩まん六エホバ言たまふ其日には我がの足蹙たる者を集へかの散されし者および我が苦しめし者を聚め七その足蹙たる者をもて遺餘民となし遠く逐やられたりし者をもて強き民となさん而してエホバ、シオンの上にいて今より永遠にこれが王とならん八羊樓シオンの女の山よ最初の權汝に歸らん即ちエルサレムの女の國祚なんぢに歸るべし九汝なにとて喚叫ぶや汝の中に王なきや汝の議者絶果しや汝は産婦のごとくに痛苦を懷くなり一シオンの女よ産婦のごとく劬勞て産め汝は今邑を出て野に宿りバビロンに往ざるを得ず彼處にて汝救はれんエホバ汝を彼處にて汝の敵の手より贖ひ取り給ふべし二今許多の國民あつまりて汝におしよせて言ふ願くはシオンの汚されんことを我ら目にシオンを觀てなくさまんと三然ながら彼らはエホバの思念を知ずまたその御謀議を曉らずエホバ麥束を打場にあつむることくに彼らを聚め給へり三シオンの女よ起てこなせ我なんぢの角を鐵にし汝の蹄を銅にせん汝許多の國民を打碎くべし汝かれらの掠取物をエホバに獻げ彼らの財産を全地の主に奉納べし

第五章一軍隊の女よ今なんぢ集りて隊をつくれ敵われらを攻圍み杖をもてイスラエルの土師の頬を撃つニベテレヘム、エフラタ汝はユダの郡中にて小き者なり然れどもイスラエルの君となる者汝の中より我ために出べしその出る事は古昔より永遠の日よりなり三是故に産婦の産おとすまで彼等を付しおきたまはん然る後その遺れる兄弟イスラエルの子孫とともに歸るべし四彼はエホバの力に由りその神エホバの名の威光によりて立てその群を牧ひ之をして安然に居しめん今彼は大人なる者となりて地の極にまでおよばん五彼は平和なりアッスリヤ人われらの國に入り我らの宮殿を踏あらさんとする時は我儕七人の牧者八人の人君を立てこれに當らん六彼ら劍をもてアッスリヤの地をほろぼしニムロテの地の邑々をほろぼさんアッスリヤの人我らの地に攻いり我らの境を踏あらず時には彼その手より我らを救はん七ヤコブの遺餘者は衆多の民の中に在ること人に頼ず世の人を俟ずしてエホバより降る露の如く青草の上にふりしく雨の如くならん八ヤコブの遺餘者の國々にをり衆多の民の中にをる様は林の獸の中に獅子の居ることく羊の群の中に猛き獅子の居ることくならんその過るときは踏みかつ裂くことをなす救ふ者なし九望らくは汝の手汝が諸の敵の上にあげられ汝がもろもろの仇のごとく絶れんことを一エホバ言たまふ其日には我なんぢの馬を汝の中より絶ち汝の車を毀ち二汝の國の邑々を絶し汝の一切の城をことごとく圮さん三我また汝の手より

魔術を絶ん 汝の中に卜筮師無にいたるべし 我なんぢの彫像
および柱像を汝の中より絶ん 汝の手にて作れる者を汝重て
拜むこと無るべし 我また汝のアシラ像を汝の中より拔たふ
し 汝の邑々を滅さん 五 而して我忿怒と憤恨をもてその聽従は
ざる國民に仇を報いん

第六章 請ふ汝らエホバの宣まふところを聴け 汝起あがりて
山の前に辨争へ 崗に汝の聲を聽しめよ 山々よ地の易ることな
き基よ 汝らエホバの辨争を聴け 我エホバの民と辨争を爲し
スラエルと論ぜん 我民よ我何を汝になししや 何において汝を
疲労たるや 我にむかひて證せよ 我はエジプトの國より汝を導
きのばり 奴隸の家より汝を贖ひ だしモーセ、アロンおよびミ
リアムを遣して 汝に先だたしめたり 五 我民よ請ふモアブの王パ
ラクが謀りし事およびベオルの子バラムがこれに應へし事を念
ひシツテムよりギルガルにいたるまでの事等を念へ 然らば汝
エホバの正義を知ん 六 我エホバの前に何をもちゆきて 高き神を
拜せん 燔祭の物および當歳の犢をもてその御前にいたるべき
か 七 我エホバ數千の牡羊萬流の油を悦びたまはんか 我愆のために
わが長子を獻げんか 我靈魂の罪のために わが身の産を獻げんか 八
人よ彼さきに善事の何なるを汝に告たり 我ホバの汝に要めた
まふ事は 唯正義を行ひ 憐憫を愛し 謙遜りて 汝の神とともに歩む
事ならずや 九 我ホバの聲邑にむかひて 呼はる 智慧ある者はなん
ぢの名を仰がん 汝ら笞杖および之をおくらんと 定めし者に聽

け 惡人の家に猶惡財ありや 詛ふべき縮小たる升ありや 一 我
もし正からざる權衡を用ひ 袋に偽の碼子をいれおかば 争で潔か
らんや 二 その富る人は強暴にて 充ち其居民は 謊言を言ひ 舌の
舌は口の中にて 欺くことを爲す 三 是をもて 我も汝を撃て 重傷
を負はせ 汝の罪のために 汝を滅す 四 汝は食ふとも飽す 腹はつ
ねに空ならん 汝は移すともつひに 拯ふことを得じ 汝が拯ひし
者は 我これを劍に付すべし 五 汝は種播とも刈ることあらず
橄欖を踐とも その油を身に 抹ることあらず 葡萄酒を踐とも その
酒を飲ことあらず 六 汝らはオムリの法度を守り 我アハブの家の
一切の行爲を行ひて 彼等の謀計に 遵ふ 是は我をして 汝を荒さ
しめ 且その居民を 胡虜となさしめんが爲なり 汝らはわが民の
恥辱を任べし

第七章 我は禍なるかな 我の景況は夏の菓物を採る時のごとく
遣れる葡萄を 斂むる時に 似たり 食ふべき葡萄あること無く 我
が心に 嗜む初結の無花果あること無し 善人地に 絶ゆる人の中に
直き者なし 皆血を流さんと 伏て 伺ひ 各々網をもて その兄弟を
獵る 三 兩手は 惡を善ならず 急がし 牧伯は 要求め 裁判人は 賄賂を
取り 力ある人は その心の 惡き望を 言あらはし 斯共に その惡をあ
ざなひ 合す 四 彼らの 最も 善き者も 荆棘のごとく 最も 直き者も 刺
ある樹の 垣より 惡し 汝の 觀望人の 日すなはち 汝の 刑罰の 日い
たる 彼らの 中に 今 混亂あらん 五 汝ら 伴侶を 信ずる 勿れ 朋友を
恃むな 汝の 懷に 寢る者に むかひて も 汝の 口の 戸を守れ 六

男子は父を藐視め女子は母の背き媳は姑に背かん人の敵はその家の者なるべし我はエホバを仰ぎ望み我を救ふ神を望み俟つ我神われに聽たまふべしハ我敵人よ我れにつきて喜ぶなかれ我休るれば興あがる幽暗に居ればエホバ我の光となりたまふ九エホバわが訴訟を理し我ために審判をおこなひたまふまで我は忍びてその忿怒をかうむらん其は我これに罪を得たればなりエホバつひに我を光明に携へいだし給はん而して我エホバの正義を見ん〇わが敵これを見ん汝の神エホバは何處に在るやと我に言る者恥辱をかうむらん我かれを目に見るべし彼は街衢の泥のごとくに踏つけらるべし一汝の垣を築く日いたらん其日には法度遠く徙るべし二その日にはアッスリヤよりエジプトの邑々より人々汝に來り就ん三その地地はその居民まで山より山までの人々汝に來り就ん四汝の杖をもて汝の民即ち獨離れてカルメルの中の林に在る汝の産業の羊を牧養ひ之をして古昔の日のごとくバシヤンおよびギレアデにおいて草を食はしめたまへ一五汝がエジプトの國より出來し日のごとく我ふしぎなる事等を彼にしめさん一六國々の民見てその一切の能力を恥ぢその手を口にあてんその耳は聾となるべし一七彼らは蛇のごとくに塵を餌め地に匍ふ者の如くにその城より振ひ出て戰慄て我らの神エホバに詣り汝のために懼れん一八何の神か汝に如ん汝は罪を赦しその産業の遺餘者の愆を

見過したまふなり神は憐憫を悦ぶが故にその震怒を永く保ちたまはず一九ふたたび顧みて我らを憐み我らの愆を踏つけ我らの諸の罪を海の底に投しづめたまはん二〇汝古昔の日われらの先祖に誓ひたりし其眞實をヤコブに賜ひ憐憫をアブラハムに賜はん